

ひょうご安心ブランド農産物生産計画書

1 土づくり技術の導入計画

生産方式等別*2:					
施用時期 (月旬)	導入技術名*1	資材名	使用量 (kg/10a)	入手方法	備考
10月	①	米ぬか	50	グループ内	いずれか選択
10月	①	堆肥（牛糞・鶏糞）	600	購入	
11月	①	稲わら全量還元	600	自家製	
4月		いねめいじん	60	購入	

*1 導入技術名は以下から選択して番号を記入すること

①たい肥等有機質資材施用／②緑肥作物利用

*2 連続または周年栽培の場合は代表的な作型に基づき記載、また、栽培時期や方法により生産方式が違う場合は別々の生産方式として記載（以下同様）

2 化学肥料低減技術の導入計画

<地域慣行*1の施肥体系>

<導入計画による施肥体系>

生産方式等別:

施用時期 (月旬)	肥料の名称*2			使用量 (kg/10a)	窒素成分量*2 (kg/10a) (有機由来)	導入技術名*3	肥料の名称*2			使用量 (kg/10a)	窒素成分量*2 (kg/10a) (有機由来)	備考*4
	N (有機N)	P	K				N (有機N)	P	K			
4月	/ /					③	有機アグレット			40	2.8 (2.8)	
							7.0 (7.0)	4.0	4.0			
4月	/ /					③	ファームパワーフィッシュ			40	2.8 (2.8)	
							7.0 (7.0)	4.0	2.0			
7月	/ /					③	有機アグレット			20	1.4 (1.4)	
							7.0 (7.0)	4.0	4.0			
7月	/ /					③	ファームパワーフィッシュ			20	1.4 (1.4)	
							7.0 (7.0)	4.0	2.0			
	/ /				0.0 (0.0)		/ /				0.0 (0.0)	
							/ /					
	/ /				0.0 (0.0)		/ /				0.0 (0.0)	
							/ /					
計					8.5		計				8.4	節減割合 (1%減)

*1 兵庫県の地域慣行レベルとして確認されている場合は窒素成分量及び有機由来窒素成分量の合計値のみの記入とすることができる

*2 有機質肥料の場合は、有機Nの割合、有機由来の窒素成分量（kg/10a）を下段に（ ）書きで記載すること
なお、新たに使用する肥料については、有機由来の窒素成分の割合や原材料がわかる資料を添付すること

*3 導入技術名は以下から選択して番号を記入すること

①局所施用／②肥効調節型肥料施用／③有機質肥料施用／④その他（その作物特有の技術に限る）

*4 窒素・リン酸・カリの全てにおいて、有機質100%の肥料を使用する場合は、その旨を備考欄に記載すること

ひょうご安心ブランド農産物生産計画書

3 化学合成農薬低減技術の導入計画

<地域慣行*1の防除体系>				<導入計画による防除体系>		生産方式等別：減農薬 うるち米・もち米	
使用時期 (月旬)	対象病虫害 雑草名	使用農薬名	節減対象 農薬成分 使用回数	導入技術名*2	使用農薬名 ()	節減対象 農薬成分 使用回数	備考
4月下	イネシンガレセンチュウ			⑨	湯温種子消毒		
4月下	ばか苗病			⑨	湯温種子消毒		
6月中旬	1年生・多年生雑草				ピクトリーZ	1kg	2 移植後30日迄
7月下旬	1年生・多年生雑草				ワイドアタックSC	100mℓ	1 移植後30日迄
7月下旬	1年生・多年生雑草				バサグラン粒剤	3kg	収穫60日前迄
8月上旬	紋枯病、いもち病、カメムシ、ウンカ類			①	畦畔除草		
8月中旬	カメムシ類			①	畦畔除草		
8月下旬	カメムシ類			①	畦畔除草		
		回数計	20		回数計	3	節減割合 -(15%減)

* 1 兵庫県の地域慣行レベルとして確認されている場合は、回数計のみの記入とすることができる

* 2 導入技術名は下記から選択して番号を記入すること

①湯温種子消毒／②機械除草／③除草用動物利用／④生物農薬利用／⑤対抗植物利用／⑥抵抗性品種栽培・台木利用／⑦天然物質由来農薬利用／⑧土壌還元消毒／⑨熱利用土壌消毒／⑩光利用／⑪被覆栽培／⑫フェロモン剤利用／⑬マルチ栽培／⑭その他（その作物特有の技術に限る）